

研究区分	学部研究推進
------	--------

研究テーマ	歯科衛生学科における将来構想を見すえた教育改革と教育研究の推進				
研究組織	代表者	所属・職名	短期大学部 歯科衛生学科・教授 ／学科代表	氏名	仲井 雪絵
	研究分担者	所属・職名	短期大学部歯科衛生学科・講師	氏名	山本 智美
		所属・職名	短期大学部歯科衛生学科・講師	氏名	森野 智子
		所属・職名	短期大学部歯科衛生学科・准教授	氏名	長谷 由紀子
		所属・職名	短期大学部歯科衛生学科・准教授	氏名	野口 有紀
		所属・職名	短期大学部歯科衛生学科・助教	氏名	中村 和美
		所属・職名	短期大学部歯科衛生学科・助教	氏名	藤田 美枝子
		所属・職名	短期大学部歯科衛生学科・助教	氏名	鈴木 桂子
		所属・職名	短期大学部歯科衛生学科・教授	氏名	有泉 祐吾
		所属・職名	短期大学部歯科衛生学科・教授	氏名	吉田 直樹
所属・職名	短期大学部歯科衛生学科・講師	氏名	松原 ちあき		
発表者	所属・職名	短期大学部歯科衛生学科・講師	氏名	山本 智美	

講演題目	シミュレーションから実践へ：歯科衛生ケアプロセスの段階的学習方略の導入
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【背景と目的】 歯科衛生学科の修業年限が2年制から3年制に変更されて以降現在まで約16年が経過した。その当時と比べて、わが国における人口構造や疾病構造は大きく変化し、歯科衛生士はチーム医療の一員として急性期病院での周術期医療、地域医療の中で周産期から老年期、また要介護者や障がい者など特別な配慮を要する患者への対応・口腔機能低下防止への介入や在宅医療等への積極的な参画ニーズが年々増加し、多様化している。このような背景の中、米国やカナダにおいて「歯科衛生ケアプロセス」(Dental Hygiene Process of Care)と呼ばれる概念が誕生した。歯科衛生ケアプロセスは「アセスメント」「歯科衛生診断」「計画立案」「実施」「評価」から構成される論理的思考過程であり、そのプロセスを臨床に適用することによって各患者のニーズに応じた、根拠に基づく歯科衛生ケアを提供することが可能となる。そもそも歯科衛生士の業務形態が全く異なる外国生まれの概念であるため、現在の日本では一般的認知度と浸透度は低い。しかし本学科の将来構想の観点から、科学的に思考し、根拠をもって問題解決できる歯科衛生士を養成するために、歯科衛生ケアプロセスの臨床教育への導入は必須である。そこで、2年次後期の講義科目によってその理論を修得し、3年次前期では症例課題に対して歯科衛生ケアプロセスを応用するシミュレーション演習、そして3年次後期の臨地実習において患者に対して実践する、という段階的学修プログラムを新規に導入した。実際に歯科衛生学科を挙げて教育の改革・推進した取り組みとして、ここに供覧する。</p> <p>また、全国歯科衛生士養成協議会等の団体が開催する研修会や学会等に本学科の教員を派遣し、教育活動を活性化するために有益な情報を収集すること、また教員の指導能力をさらに向上させることも、本教育推進計画の1つであった。</p> <p>【成果及び今後の展望】</p> <p>1) シミュレーション学習のための症例、ならびに実践のための患者担当は実習先にご対応いただき、歯科衛生ケアプロセスの応用に関する個別指導は学内教員が担当した。実習終了後の学生による自己評価の集計結果によると、8～9割がポジティブな回答であった。学生自身は学びの意義を実感していると考えられる。教員の指導方法については、今後さらなるブラッシュアップに努めたい。</p> <p>2) 前年度に続き、COVID-19感染拡大防止により、先述した研修会や学会は全てweb開催であった。そこで、その分の予算を本学科学生の学習用共通機器の補填にあてて有効的に活用し、学科の教育推進と教育環境のさらなる向上に努めることができた。</p> <p>今後も、地域や時代のニーズに応える人材を育成するために、学科の教育推進・活性化をめざす。</p>